

わが社の歴史

株式会社シバソク

計測とともに60年

—パワーエレクトロニクス装置で世界 No.1を目指す。

■プロローグ

当社の歴史の起点は、1948年に創立しました芝電気株式会社にまでさかのぼります。

放送機器製造を手がけていた同社の測定器部門を独立させて、1955年9月に芝電気測器株式会社を設立し、測定器メーカーとしてスタートを切りました。当初は、国産初のひずみ率計を製造するなど、放送局向けを主とした高い信頼性を有するオーディオ計測器を製造してきました。日本が高度経済成長を迎えるとともに、測定器の需要も音声から映像へと広がり、当社もテレビ用測定器へと進出、関連測定器の販売が急拡大しました。1960年以降は、カラーテレビ用測定器の開発に注力し、今からちょうど50年前の1964年東京オリンピックを契機としましたカラーテレビ需要に伴い、カラーテレビ用測定器ではトップメーカーの地位を確立しました。以後は、産業用計測器の生産も手がけるなど、自動計測システムの開発・製造にも尽力しました。また、1970年9月には社名を株式会社シバソクと変更し、更なる測定器の分野開拓を目指しました。

■社名の由来

シバソクという社名の由来は、1955年9月から業務を開始しました芝電気測器株式会社時代にさかのぼります。

お客様からは、常日頃より芝電気測器(シバデンキソッキ)を略して「シバソク」とご愛称いただいていた。お客様にわかりやすく、かつ親しみと信頼を込めてご愛称いただきました「シバソク」を社名とすることは、お客様第一主義を忘れることのないよう努め、お客様と常に課題を共有することで存在価値を高めていく当社の企業戦略に合致し、1970年9月に株式会社シバソクと変更しました。当時としては珍しいCI戦略のさきがけともいえるでしょう。

■リニア IC テスタへの挑戦

当社は、オーディオ・ビデオ測定器のシバソクとして業界から高い信頼を得てまいりましたが、計測を発端とする会社として、今後のエレクトロニクスの中心となる半導体の試験装置に参入するのは自然な流れでした。当時の IC 試験の分野としてはランダムロジック、メモリ、リニア IC がありましたが、オーディオ・テレビ用計測器の豊富なノウハウを生かせる分野として、当社はリニア IC テスタの開発をスタートさせました。

1974年には国産初のテレビ用リニア IC テスタ (モデル LT303) を開発し、民生用から産業用への半導体産業の成長とともにリニア IC テスタのシバソクへと発展してきました。

これが後に当社のベストセラー製品となります WL11、WL8000、WL25へと進化し、技術が継承されていきます。

■次世代のリニア IC テスタ開発へ

1980年に入りますと、デジタル計測部門から産声をあげたリニア IC テスタは、オーディオ、テレビ、電源用リニア IC を対象とした WL11へと進化を遂げました。

より低価格でより高速性のハイグレードシステム、拡張性が豊富なライン用テスタのパイオニアとしてお客様のご支持をいただき、大ヒット製品となりました。測定対象も民生用、産業用、通信用、自動車用デバイスと広範囲に対応し、システムの拡張性とメンテナンス性を重視したモジュール方式の WL11は、日本国内はもとより、海外にまで販売実績を伸ばしました。



WL11 リニア IC テスタ

WL8000 リニア LSI テスタ

1982年には将来のリニア IC の高集積化、高速化、多機能化をにらんだ、WL11 IC テスタの上位機種に位置づけられる WL8000リニア LSI テストシステムを発表しました。

IC の開発から生産工程まで幅広く対応できる汎用性と当時の最先端技術を集約したこのシステムは会社の利益に大きく貢献しました。

■更なる LSI テスタの追求

1984年には、WL11の後継機である WL12を発表し、多種類のリニア IC に対応するその柔軟性と拡張性がお客様の支

持を得て、WL11を上回るヒット製品となりました。

また、WL8000の性能アップと、コンパクト化を実現したWL83 LSI テストシステムと、WL12の後継機であるWL20を、それぞれ1988年に発売しました。

1992年には従来のテストを整理統合し、アナログ測定においても従来のマトリクス切換えによる測定からパーピンアーキテクチャを採用したWL93/WL22 LSI テストシステムを発売しました。

新アーキテクチャによりデバイスの測定時間を短縮、同時測定アプリケーションのプログラミング簡略化、高速で高精度に測定する技術がここで確立しました。特にウェーハ測定では、同時測定のDUT数を増加させることでスループット向上を実現し、お客様の検査コスト低減に貢献しました。

■ミクスドテスト分野への参入

1996年にはミクスドテストとしてWL93αを開発しました。高速デジタル、DSPによる高速な信号処理等その豊富なオプションモジュール群による柔軟性と拡張性は、時代のニーズに対応できる開発力、技術力を追及した成果として、通信用デバイス、ロジック、マイコン等、幅広いデバイスに対応したベストソリューションのテストシステムとなりました。

■パワー半導体測定システムへの第一歩

2000年を迎えますと、現在、アナログテストとして主力製品となっておりますWL25/WL15 LSI テストシステムが誕生しました。

長年に渡り、お客様と共有した知識・経験・ノウハウの集大成として、高い拡張性、高速、高精度を誇るアナログテストの完成です。大電流、高圧モジュールを多数用意することにより、現在でも需要が高いパワー半導体測定にも対応できるシステムへと進化しました。



WL25 LSI テストシステム WL15 LSI テストシステム

■多様化するテストアプリケーション対応体制の構築

他方では、お客様よりテストのアプリケーション対応要望が飛躍的に高まりました。

当社は、このご要求に対応するため、2008年にシバソク・アプリケーション・アライアンス体制を設立しました。これは当社が長年培ったアプリケーションのノウハウを当社の厳しい審査に合格した協力会社とアライアンスを組み、お客様の要望に応じていく体制です。

アライアンスを組みました協力会社とともに、お客様のご要望を共有することによって、お客様にご満足いただける短納期、低コスト対応など、実現できるようになりました。

■パワーエレクトロニクス装置で世界 No.1を目指す。

世界中で環境やエネルギー問題が叫ばれている昨今、ハイブリット自動車やエアコン、冷蔵庫などの省エネ家電製品に使用されるIGBT、MOSFET、新素材であるSiC、GaNの高速スイッチング特性の測定に必要なダイナミック試験機の開発を行う必要性が出てきました。2009年には、いまままでパワー半導体の測定を担当していた当社のアプリケーションエンジニアとテスト開発エンジニアを集めてプロジェクトチームを発足させました。



ダイナミック試験機

このプロジェクトは、お客様と共有したパワー半導体のノウハウを最大限に生かし、成果として2011年には MOSFET、SBD 測定用900V/200A の L 負荷 SW 試験機を市場に投入することができました。

2012年には車載用 IGBT 測定として1200V/800A のダイナミック試験機を、又インフラ、新幹線用 IGBT、SBD 測定として5500V/1500A (耐圧9000V) の L 負荷 SW テスタを完成させました。このプロジェクトは現在も、常にお客様の測定ニーズに対応したウェーハ、チップ、パッケージに合わせて、最適な性能へと向上させたテスタを開発し、販売へと導いています。

■常にクオリティーアップとスピードアップを求めて

当社は、来年60周年を迎えます。オーディオ測定器を出発点に、テレビ用測定器、通信用測定器、そして半導体測定器と、時代を先取りした製品をお客様と常に課題を共有しつつ、世に送り出してきました。

当社には、時の変化に左右されることのない普遍的な考えとして、お客様に満足していただける製品を作るには、常にクオリティーアップとスピードアップで真摯に取り組まなければならないという企業戦略があります。これは当社の経営理念を基にしたものづくりに対する考え方です。

「和、誠、革新の心を育み常に自由豁达な精神で社会に貢献できる会社を創造します。」

この当社経営理念は、全部門が一丸となって目標に邁進するチームワーク（和）を持ち、物事に真摯に取り組む姿勢（誠）を忘れず、失敗を恐れずに新しい分野・技術に積極的に挑戦（革新）し、社会に貢献する企業を目指すということです。

1955年の設立以来、半世紀以上にわたってお客様とともに共有してまいりました「歴史」と「品質」に誇りを持ち、常に先端技術を意識し、かつ積極的に取り入れ、お客様が求めるニーズを先取りした「ものづくり」に取り組む開発型企業としてこれからも成長していきます。



2015年竣工予定 所沢新工場（イメージ図）